

JUNCTION

CONTENTS

交換留学体験記～派遣～	2
交換留学体験記～受入れ～	4
九州産業大学派遣留学案内	6
留学生会から新入留学生のみなさんへ	6
日本語弁論大会	8
留学生の四季	10
幼稚園・小学校訪問	11
平成23年度国際交流の歩み	12



交換留学体験記～派遣～

Outbound Exchange Program



(筆者右上:留学生サッカーチームのみんな)

留学を振り返って

いとやま なおき
糸山 尚希

商学部観光産業学科3年
アビリン・クリスチャン大学
(アメリカ)

私は留学する前に4つの目標を立てました。振り返ってみるとこの目標は全て達成できたと思います。

1つ目の目標はスピーキング能力の向上です。やはり日本にいると英語を話す機会というのは限られているので、留学先では積極的に授業に参加し、発言することを意識していました。この意識を持って生活していると、自然に、自分から英語を話したい!という気持ちが芽生え、文法などは間違っていたとは思いますが、特に恥ずかしがることもなく意思疎通が徐々にできるようになったと思います。

2つ目の目標は、できるだけ現地の日本人と一緒に過ごさないとことです。留学先には15名ほどの日本人学生がおり、ものすごく親切で、毎年九産大から来る派遣留学生を楽しみにしている方もいます。もちろんその人達と過ごすのも楽しいのですが、派遣留学は時間が限られているので、私はできるだけ日本人以外の友人と過ごし、英語を話す機会を自分から作っていきました。

3つ目の目標は多くの国の友人を作ることです。それはスポーツが解決してくれました。私は在学中、特に中国人の友人たちと過ごすことが多く、その友人の紹介で、大学の留学生サッカーチームに所属することができ、アメリカ、ケニア、フィリピン、ホンジュラス、メキシコ、マダガスカル、中国、韓国など様々な国の人と知り合うことができました。そして、毎週日曜日はサッカーのリーグ戦があり、週に1回はチームメイトとパーティをしていました。私が帰国する時には、チームメイトがサプライズでお別れパーティを開いてくれました。その時私は、まんまと騙され、嬉しさと感動で泣いてしまいました(笑)。

最後の目標は健康に過ごすことです。これはなかなか難しい目標でした。留学先での夏の昼間は40度近くにもなり、夜や朝は、夏は20度、秋は0度近くまで気温が下がることも頻繁にありました。

私は、以上のように留学に行く前から自分自身に目標を設定して準備していたので本当によかったと思います。もちろん、自分が留学前に期待していたことと違っていただけなどたくさんありましたが、目標を持って生活していたので、なんとか自分なりに対処できたと思います。

実際、留学に行ったからといって英語がペラペラに話せるようになったり、TOEICの点数が200点も伸びたりということは私にはありませんでした。しかし、私は留学時にたくさん悩み、英語で伝えるにはどうすればいいのかということを考え、そして思いっきりアメリカでの生活を楽しみました。これは私だけにしかない財産となりました。



(筆者左から3番目:友人とのパーティーにて)

英語の大切さについて

なか そね れいこ
仲宗根 礼子

国際文化学部国際文化学科4年
リバプール・ジョン・モーズ大学
(イギリス)

留学する前のイギリス人のイメージは、曖昧な表現をする日本人に対して冷たい態度をとるのではないのかというイメージで、仲良くしてくれるか心配でしたが、彼らは遠く離れた同じ島国に住む私を快く受け入れてくれました。リバプールはまた、おもしろい街としてイギリスの中でも有名であるため、街の人たちも親切な人が多く、人々がいつも笑いあっている光景が印象的です。私たち日本人が持つヨーロッパの街並みのイメージとはかけ離れていますが、とても住みやすく不便がない環境で半年間過ごせました。

一番思い出に残っている出来事は、ハロウィンです。その日はみんな授業が終わるとすぐに家へ帰り、コスチュームに着替え、普段できないメイクをして集まりました。日本のハロウィンというと、どこか可愛らしさが残っていたり、盛り上がり欠けたりする部分があるのですが、本場のイギリスではリアルなゾンビに変装したり、魔女やジャックオーランタンのお化けになったりと、街全体がハロウィン一色で、私が参加したパーティーでも個々の個性が最大に表現されていて、とても楽しかったです。また、イギリス人だけでなく中国・スペイン・イタリア人とも仲良くなり、一緒にご飯を食べに行きました。互いの国の文化や自分たちが持つイギリスへのイメージ、恋愛話などをしましたが、国によって考え方や感じ方が全く異なり、いい異文化体験ができました。学校の授業でもグループワークが求められたため、他の国の人も交流ができ、意見交換を行いました。このように外国人とコミュニケーションをとるにあたって、毎回感じたことが英語の大切さでした。他のヨーロッパや中国の人は、もともと義務教育の中で英語の習得を完璧にしているため、当たり前のように英語を使って会話もでき、レベルの高い大学の授業を受けることも可能な様子でした。それに比べ、私は自分の意見を言うのに時間がかかり、いつも彼女らに助けられました。その度に自分の英語力のなさを痛感し、早く私も、英語で会話ができるようになりたいと、通じているのかわからない英語で毎回交流を図るようにしていました。帰国する直前、あるJsoc⁽¹⁾の集まりで、いつも冗談しか言わない友人とおしゃべりをする機会があったので、その友人と日本について話していると突然「英語上手になったね!普通に会話のキャッチボールができるよ!」と褒められ、とても嬉しく感じました。自分の中でずっと不安でしかなかった英語での会話を初めて褒められ、本当に留学してよかったと思いました。

日本に帰って来て、リバプールでの貴重な体験を無駄にしないよう、普段の生活で英語に少しでも触れるようにしています。半年間という時間は本当にあっという間でしたが、そこで出会った人々や体験した文化は、今の自分に自信をつけ、強みにもなっています。目標はなんでもいいと私は思います。自分が実際に感じたものを大切に今ある時間を楽しんでください。

(1) Jsoc(Japanese Societyの略称、日本に興味を持つ学生のサークル)

語学以上に学んだこと

いけだ たかあき
池田 貴明

国際文化学部国際文化学科4年
リール・カトリック大学(フランス)



(筆者左:エッフェル塔にて)



(筆者中央:ランチタイムにて)

私はフランス語の上達だけを留学の目標にしてきました。もちろん、日本にいる時と比較すれば話せるようにはなりました。しかし、私には、それ以上に得たものがあります。それは人との繋がり大切さです。私はかなりの方向音痴で、フランスに着いてから、どうしても目的地に上手く辿り着くことができませんでした。フランスのリール駅に着いてすぐ、私は近くに居たフランス人の方に道を尋ねました。彼らは、赤の他人である私に、丁寧に私が理解するまで道を教えてくれました。その後も幾度となくフランス人に聞いてまわったのですが、みな同じように接してくれました。そして、私が悩みを抱えて落ち込んでいる時に話を聞いてもらった相手もフランス人でした。無論、挨拶程度の会話では通じないので、辞書を引いて、使い方が合っているかもわからない単語と文法で説明しました。そして、彼らは、それをきちんと理解して、わかりやすく私を励ましてくれました。恐らく、私の表情と雰囲気で大体のことを察してくれたのでしょう。私にとってそのことがとても嬉しかったです。

心が通っていれば、言葉は不要なのかもしれません。言葉が通じないからこそ、耳だけではなく、心で聞くことの大切さに気づくことができました。そして、そのフランス人とは仲良くなり、お互いを「ブラザー」と呼び合っています。日本だと、そう呼び合うことは恥ずかしいと思うかもしれませんが、今では、友人、家族、恋人、他人でさえも、みな大切な存在と思うようになり、人との繋がりこそが今の私にとって一番大切なことだと言い切れます。

フランスにおける異文化の歴史や、フランス人の性格や思考が日本人と比べてどう異なるのかなど、多くのことを学びましたが、この留学を通して一番勉強になったことは、人が生きていく上では、やはり人との繋がりが一番大切であると、今は自信を持って言えます。

言葉が拓ける異文化の世界 -アジアの人々との触れ合いの中で-

かねこ ゆうこ
金子 祐子

国際文化学部臨床心理学科2年
東亜大学校(韓国)



(韓国語での発表会にて)



(筆者右:ブルコギパーティーにて)

韓国での留学期間を終え、私にはまた新たな目標が生まれました。私は国際文化学部の臨床心理学科で語学とはほど遠い勉強をしています。しかし、韓国語の勉強はこれからも継続して、臨床心理の勉強も怠らずに励み、いつかこれら二つの分野が交わる日が来ることを目標に勉強していきたいです。私は留学のおかげで、新しいことに失敗しても果敢にチャレンジすることの大事さを改めて実感しました。正直言うと、私の学科は、語学は重要ではないと考える人が多いと思います。そのことで私はとても悩みましたが、留学は自分がしたいことであつたし、何より私を一番に応援してくれた両親、様々な方面でご協力してくださった韓国語の先生方、学科の先生方、国際交流センターの職員方、友達みんなが後押ししてくれたため、留学にチャレンジすることができました。今こうして韓国での貴重な半年を終え、本当にチャレンジしてよかったと思うと同時に、周りの方々に本当に支えられていると実感し、感謝しています。実際に行動し、自分が身を持って経験しないと分からない文化の違いや、国籍の違い、考え方の違いを学ぶことができました。留学で学ぶことは語学だけではないと思います。留学先では本当に貴重な体験ができました。

これから留学に行く方へのアドバイスとして、在学中に留学できるチャンスはなかなかないので、自分の目標を明確にし、いろんなことにチャレンジし、有意義な留学期間を送ってほしいと思います。ただ、自分が九州産業大学代表、日本人代表として見られているという意識をしっかりと持ち、日本人として恥ずかしくない行動をしてほしいと思います。文化の違いで悩んだり、不思議に思ったりすることがあるかもしれませんが、それは留学でしか体験できない素晴らしいものです。自分のこれまでの価値観が変わるだけでなく、さらに視野が広がり、自分自身を成長させることができると思います。今の私は、自分のアイデンティティを大事にし、広い視野で物事を見ることができるようになりました。留学は私の人生を大きく変えてくれました。

交換留学生体験記～受入れ～

Experience of Studying at KSU

マティアス・グレスナー

協定校 : シュトゥットガルト造形美術大学(ドイツ)

受入れ期間: 平成23年9月～平成24年2月

受入れ学部: 芸術学部



(筆者左: 弟と金閣寺にて)

私が、日本に着いたとき感じたこと、それは「もう後戻りはできない!」ということでした。しかし、初めて東京に着いたとき、私の不安だった気持ちは、突然何かに陶酔するような幸せな気持ちになりました。睡眠不足も多少影響していたためか、私は、これからの日本での生活への期待感にしばらく1人で笑っていました。周りから見ればかなり目立っていたと今では思います。福岡に着き、部屋を案内されると、まず目についたのはきれいに整えられた畳と障子です。映画のキル・ビルの1シーンを思い出しました。そこから始まった5カ月間、私は様々な経験をすることができました。九産大のキャンパスは、とても広いにもかかわらず管理が行き届いていました。私は芸術学部所属し、安齋先生の指導のおかげで充実した学習をし、たくさんの事に触れることができました。マンガにも元々興味があったため、描写のクラスを受講できたのも良かったです。ドイツの建築の研究では、すぐコンピュータを使用するため、直接手を加える描画は貴重な経験となりました。この経験をドイツでの修士論文にも活用したいと思っています。

私は九産大で陶芸デビューしました。私が作ったマグカップは、不格好でゆがんでしまいましたが、自身の手で粘土から作り上げたことでアルカイックなセンスが身につきました。他にも香椎祭でネパールカレーを作ったこと、ドイツから来た弟と一緒に初めて乗る新幹線で東京、京都、日光、鎌倉に旅行に行ったことなど、たった5カ月の滞在だったにもかかわらず、中身が濃く神秘的で驚きに満ち溢れていました。

毎日、どんな体験をするのか全く予想できませんでしたが、失望したことは一度もありません。想像したものには、良い意味で常に期待を裏切られていました。それが本当に新鮮で良い体験となりました。この“差”をドイツ語に訳することはできませんが、私はこれを“日本のロマンス”として記憶に留めておこうと思います。時間はとても早く過ぎ、日本ですばらしく貴重な経験をすることができました。これは、これからもずっと私の記憶に留まるものだと思います。おそらく私が日本に戻ってくるのか疑問に思っている人も多いと思います。

今度日本に帰ってくるかと聞かれれば、私はこう答えたいと思います。

“次はない”なんて絶対に言わない”

(007シリーズ第4作目 Sean Connery主演,「Never Say Never Again」より引用)

ケイティ・スミス

協定校 : リバプール・ジョン・モーズ大学(イギリス)

受入れ期間: 平成22年9月～平成23年8月

受入れ学部: 経営学部



(大学近くのカフェにて)

交換留学は、言葉や文化だけでなく、外国に住むことの難しさや人の優しさ、自分自身についても知る機会を与えてくれました。故郷のリバプールから遠く離れた場所で暮らすのは初めてだったので、文化や習慣や言葉の違いなど日常のすべてが障害物のように見え、日本に来て間もなくはひどいホームシック状態でした。でも、大学の交流行事や日本文化を知る様々なイベントに参加していくうちに、他の国からの交換留学生や日本人学生とも知り合う機会が増え、少しずつ充実した楽しい留学生活になっていきました。他の交換留学生が次々と留学期間を終え帰国し、私も帰りたと思うほど寂しい時期もありましたが、先生方や友人のサポートのおかげで最後まで頑張ることができました。

日本はイギリスと比べると驚くほど便利で生活しやすい環境でした。24時間営業のコンビニや自動販売機はあらゆる所にあり、公共交通機関は正確で効率的に運営され、郵便は素早く確実に届きます。また、日本の社会は顧客に対するサービスを最重要視しており、お店で一度も嫌な思いをしたことがないし、それは日本社会のどこを見ても徹底されていると思います。適応が大変だったのは、日本の気候と食べ物です。イギリスは夏でも最高気温の平均はだいたい20度くらいなので、日本で初めて飛行機から降りたとき、あまりの暑さに驚きました。この暑さは飛行機のエンジン熱のせいだろうと思ったほどです。食べ物に関して言えば、私は魚介類が苦手なので、魚介類をよく摂る日本人のメニューはあまりなじみませんでした。日本の代表料理であるお寿司に何度も挑戦しましたが、やっぱり最後まで克服できませんでした。

今、留学を振り返って、九州産業大学で学ぶことができ本当に良かったと思います。広くて近代的で、先生もスタッフも親切でフレンドリーです。授業も先生方がいろいろな教材やツールを使って進めてくれ、本当に楽しむことができ、日本語もかなり上達したと思います。留学を終えた今、今度は日本で働いてみたいと思うようになりました。このような素晴らしい機会をもらえて、何物にも代えることができない体験ができたことを本当にうれしく思います。



ジョ ショショウ
徐 初照

協定校 : 中国人民大学(中国)
受入れ期間: 平成22年9月~平成23年8月
受入れ学部: 国際文化学部

(筆者中央)

留学中で一番ありがたいと思ったことは、沢山の国の留学生と出会えたことです。広い世界の様々な国の若者達が一体どのような価値観を持ち、また、中国のことをどう思っているのかをずっと前から知りたいて思っていました。もし日本に来なければ、私は世界の広さを実感することができなかつたのだと思います。沢山の国の留学生との交流を通じて、私が当たり前だと思っていたことは実際、外国人にとって驚きの対象であったということが分かったり、マスコミの報道されたことを全て鵜呑みにすることは、何が正しくて何が間違っているのかを自分自身で考える思考能力を妨げてしまうということが分かったりしました。日本でよく友達から、北京は自転車がすごく多いだろうと聞かれます。車が多すぎて交通渋滞に悩まれる今の北京にとって、自転車の時代は大昔のことです。しかし、中国に行ったことのない人の頭に残っている北京は、十年も前の北京です。もちろん、私も日本に来てみて、多くの誤解があることに気付かされました。

日本と中国は千年の交流史がありますが、数十年にわたる戦争もあります。歴史の意義は、間違いと失敗をすることで得た知恵を現代人の私たちに教えることです。私達は、未来に向かって手を繋ぐべきだと思います。私にとって外国語を学ぶということは、自分が生活している社会以外の社会に触れることであり、更には自分の持っている価値観とも向き合い、視野を広げることであります。



イ ジョングン
李 正根

協定校 : 東国大学校(韓国)
受入れ期間: 平成23年4月~平成24年3月
受入れ学部: 国際文化学部

(筆者右:新入留学生バスハイクにて)

この1年間は濃密で色々なことがありました。韓国では自分から話しかけることは恥ずかしくてできませんでしたが、日本では人に話しかけたり、遊びに誘ったりし、積極性という韓国にいた頃とは違う一面を持った自分を発見することができました。また、留学に来ている以上、より会話能力を高めたいと思い、日本語で話しながら知らない単語が出たら、常にメモを取るようになり、色々自分なりに工夫し、楽しく勉強をしてきました。こうした努力の結果が表れたのでしょうか。日本に来た当初より、イントネーションなどがよくなり、日本語らしい日本語を駆使するようになったねと時々誉められるようになりました。楽しくて笑ったことや、寂しくてたまらない日々もありました。しかし、振り返ってみると、外国で一人暮らしをし、自分自身で何もかもやってきたということは、自分にとって大きな自信となり、とてもよい経験になりました。色々な壁にぶつかることもありましたが、それらは、今後生きる上での重要な糧になったと思います。この留学を通じて感じたこと、得たこと、考えたこと、学んで成長したこと、この全ては、何かしら私の今後の人生に大きく役立つと思います。



チェ ミョンジン
崔 明眞

協定校 : 東亜大学校(韓国)
受入れ期間: 平成23年9月~平成24年2月
受入れ学部: 商学部第一部

(筆者右上:湯布院にて他の交換留学生と)

日本で印象深かったことは、他の国の交換留学生との生活と、ゼミの授業です。他の交換留学生も、私と同じような立場で日本に留学し、九州産業大学に勉強しに来ているので、すぐに友達になることができました。日本語の先生と一緒にお祭りに行ったり、花火大会に行ったりしながら仲良くなりました。そして、交換留学生は皆、自分の国を去って、慣れない日本で生活しなければならなかったことから、お互いを大いに頼りました。

ゼミの授業は、私の指導教員の勧めとして受けることができました。日本に来た時は、日本語で喋るのもあまり自信がなかったし、ゼミという授業も初めてだったので緊張しました。本当に私がゼミの一員として皆の役に立てるのか、邪魔になるのではないかと心配しました。そのような私を、先生と友達が気にかけてくれ、サポートしてくれたおかげで無事に最後までゼミをやり遂げることができました。ゼミの授業で発表の準備をしたり、他の人の発表を聞いたりしたことは韓国に帰っても忘れたいと思います。ゼミの授業のおかげで、楽しい思い出がたくさんでき、大事な友達もできて私の留学生活はさらに充実したものになったと思います。



パク ヘミ
朴 慧美

協定校 : 東亜大学校(韓国)
受入れ期間: 平成23年9月~平成24年2月
受入れ学部: 芸術学部

(日本語弁論大会にて)

留学当初は日本語が苦手で色々失敗をしました。しかし、それらの失敗から学んだことも多かったと思います。先生方はとても親切で、私が知らないことを質問すると詳しく丁寧に説明して下さいだったので、勉強面では大きな苦勞はせず済みました。おそらく、外国での生活を送る上で、一番懸念されることは言語だと私は思います。私は日本語がとても苦手でした。生きた外国語を勉強したいなら、その国へ実際に行って生活してみないといけないう言葉があります。日本に来て授業や生活全てが日本語になり、初めは大変でしたが、今では日本語がとても上達したと思います。また、日本語で困った時は友達が積極的に助けてくれました。

日本は外国人が生活するにはとても良い環境だと思います。日本の人は大抵親切で、治安も良く、留学生活に問題はありませんでした。私は留学しながら日本の文化に触れ、理解することができて本当に良かったと感じています。日本に来なかつたら、聞いたことやイメージだけの日本しか私の頭の中になかつたと思います。

九州産業大学派遣留学案内

Guide of Studying Abroad

交換留学

九州産業大学では、国際文化学部、経済学部、商学部第一部・第二部、経営学部の学部生を対象とし、8月から翌年1月までの6ヵ月間、派遣留学生として交換留学協定校に派遣しています。選考試験(平成23年度実績)については、下記のとおりです。

■英語圏

(書類審査、TOEFL ITP、面接)

■フランス、中国、韓国

(書類審査、語学能力試験、面接)

英語圏に留学を希望する方は、TOEFLやIELTSのスコアアップを目標に取り組みましょう。

募集時期、選考内容等については、国際交流センターまでお問い合わせください。

※交換留学協定校については平成24年4月現在

イギリス



リバプール・ジョン・モーズ大学
<http://www.ljmu.ac.uk/>

イギリス



リーズ・メトロポリタン大学
<http://www.lmu.ac.uk/>

アメリカ



アベリン・クリスチャン大学
<http://www.acu.edu/>

フランス



リール・カトリック大学
<http://www.univ-catholille.fr/>

中国



中国人民大学
<http://www.ruc.edu.cn/>

韓国



東国大学校
<http://www.dongguk.edu/>

韓国



東亜大学校
<http://www.donga.ac.kr/>

留学生会から新入留学生のみなさんへ



平成23年度九州産業大学
留学生会会長

林 瀚華(中国)

(経営学部産業経営学科 4年)

新入留学生の皆さん、九州産業大学へのご入学おめでとうございます。私は、平成23年度九州産業大学留学生会会長の林瀚華と申します。皆さんは母国を遠く離れ、それぞれの夢を持って日本に留学し、そして九州産業大学に入学しまし

た。新入生の皆さんは自分の夢に向かって精一杯頑張ってください。

大学は、大きく学ぶと書きます。大学ではさらにビジネス日本語や日本のマナーを学ぶことができ、自ら目標とする資格を取得できれば、将来就職する時に必ず役に立つと思います。

私たち留学生会は、皆さんが充実した大学生活を送れるよう全力でサポートしています。留学生会は、留学生同士の友好を深めたり、日本の方々と交流したりすることを目的として作られた組織です。九州産業大学では、留学生のいろいろなイベントを行っています。例えば、新入留学生歓迎バスハイク、異文化交流、日本語弁論大会、大学祭での模擬店出店、小学校との交流、地域住民の方々

との交流などです。他にも、私たち留学生会の呼びかけで、スポーツ好きな留学生が集まり、週に1、2回サッカーやバスケットボールをして汗を流しています。たくさんのイベントを企画していますので、皆さんぜひ、積極的に参加してください。留学は人生でとても貴重な経験となり、必ず自分の将来にプラスになると私は思っています。

最後に皆さんにお勧めしたい「ことわざ」があります。それは「初志貫徹」という言葉です。つまり、初めに思い立った志を変えないで、最後までやりとおすという意味です。新入生の皆さんが留学生活で悔いが残らないよう、これから楽しく充実した生活を送れることを心より願っております。

芸術学部交換留学

芸術文化交流を目的とし、芸術学部の学生を対象にドイツとフランスへ学生を派遣しています。ドイツへの派遣期間は10月から翌年2月までの5ヵ月間、フランスへは、隔年で9月から12月までの3ヵ月間派遣しています。(次回は平成25年度派遣予定)

フランス



ボルドー美術学校
<http://www.bordeaux.fr/>

ドイツ



シュトゥットガルト造形美術大学
<http://www.abk-stuttgart.de/>

交換留学スケジュール(平成23年度実績)

	国際文化学部、経済学部、商学部第一部、第二部、経営学部						芸術学部	
	アメリカ ワシントン州立大学	イギリス リバプール大学	フランス リヨン大学	中国 中国人民大学	韓国 東国大学校	韓国 東亜大学校	ドイツ シュトゥットガルト造形美術大学	フランス ボルドー美術学校
平成23年 12月	派遣留学募集説明会						派遣留学募集説明会	派遣留学募集説明会
平成24年 1月	願書締切、第一次選考試験(筆記試験)						願書締切、第一次選考試験(筆記試験)	派遣留学募集説明会
2月	第二次選考試験(面接)						第二次選考試験(面接)	
3月	派遣留学生決定						派遣留学生決定	願書締切、第二次選考試験(筆記試験)
4月								第二次選考試験(面接)
5月								派遣留学生決定
5月	派遣留学手続き(5月中旬~7月中旬)							
6月	事前研修(5月中旬~7月中旬)							
6月	ビザ手続き(6月)							
7月	オリエンテーション(7月)							
8月	出発	出発	出発	出発	出発	出発	出発	出発
9月	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
10月	帰国	帰国	帰国	帰国	帰国	帰国	帰国	帰国
11月								
12月								
平成25年 1月								
2月								
3月								
4月	事後研修							
5月	派遣留学報告会							

九州産業大学留学生会とは

九州産業大学留学生会は、平成2年4月に留学生相互の親睦と友好を深め、勉学に励み、国際交流に寄与することを目的に作られた在籍する留学生のための組織です。主な活動としては、新入留学生バスハイク、異文化交流、ポウリング大会、大学祭での模擬店参加、日本語弁論大会への参加、小学校との交

流、地域住民との交流などがあります。留学生会では、留学生のみなさんが楽しめるよう有意義な活動を目指して、計画を練っています。留学生会を通じて、留学生相互の親睦をはかったり、貴重な情報を共有したり、さまざまな体験ができると思います。



香椎祭にて模擬店出店



福岡県留学生会主催サッカー大会出場



福岡県留学生会主催バスケットボール大会出場

日本語弁論大会

Japanese Speech Contest

日頃の日本語学習の成果を感動のスピーチに!

平成23年12月3日(土)に「第4回留学生による日本語弁論大会」が開催されました。日頃の日本語学習の成果を発表しようと奮って参加した留学生は過去最多の23人でした。留学生それぞれが個性溢れるテーマでスピーチし、会場は感動に包まれました。



最優秀賞

イ ジョングン
李 正根 (韓国)
国際文化学部交換留学生
「家族の大切さ」



パク カイゲツ
朴 海月 (中国)
国際文化学部国際文化学科1年
「日本での留学生活で感じたこと」



カドカ マノジ (ネパール)
商学部第一部観光産業学科2年
「先生と私の体験」



ロウ ティビット ウィリアム (イギリス)
芸術学部交換留学生
「イギリスと南アフリカと日本の文化の違い」



優秀賞

ドウ イ
董 威 (中国)
国際文化学部交換留学生
「私の妖怪談」



キン リュエツ
金 龍哲 (中国)
国際文化学部国際文化学科2年
「使われる鍵は常に光っている」



チェ ミョンジン
崔 明眞 (韓国)
商学部交換留学生
「日本での留学生活」



マティアス グレシュナー (ドイツ)
芸術学部交換留学生
「建築と漫画」



奨励賞

チョウ グンミョウ
張 軍苗 (中国)
国際文化学部交換留学生
「一生のお守り」



イ ジョンイル
李 正豊 (韓国)
国際文化学部国際文化学科3年
「スペックよりストーリーを作ろう」



ダオ ティ ホワイ トゥーン (ベトナム)
経営学部国際経営学科1年
「祖父との思い出」



パク ヘミ
朴 慧美 (韓国)
芸術学部交換留学生
「二つに分けられている韓国」



オーディエンス賞

ジョ タイカ
徐 太哥 (中国)
国際文化学部国際文化学科4年
「距離」



クニングハム トーマス アシュレイ (イギリス)
国際文化学部交換留学生
「宗教と文化と日本の自殺率の関係」



エン セツ
閻 雪 (中国)
経営学部国際経営学科1年
「選択」



ヘンドロフ ダビーナ ミドリ (マレーシア)
芸術学部デザイン学科1年
「日本での生活」



オーディエンス賞

グ リ ミ ル ジュラティ
古麗米熱 居来提 (中国)
国際文化学部臨床心理学科1年
「留学生活で感じたこと」



リュウ エンリュウ
劉 焱龍 (中国)
商学部第一部商学科1年
「日本語の敬語について」



ソウ ヨウ
臧 洋 (中国)
経済・ビジネス研究科修士1年
「おもしろい挨拶」



コウ チヒロ
黄 千紘 (台湾)
芸術研究科修士2年
「日本のお弁当について」



ダン ミン タオ (ベトナム)
国際文化学部日本文化学科1年
「子どもの笑顔」



サイ ビ エン
崔 美艶 (中国)
商学部第一部商学科4年
「私の故郷～威海～」



オウ シン
王 晨 (中国)
経済・ビジネス研究科修士2年
「福岡での生活について」



日本語弁論大会発表者

今回は、数ある発表の中から、母国の民族衣装で出場し、素晴らしいスピーチでオーディエンス賞を受賞した古麗米熱 居来提(グリミル ジュラティ)さんの発表を紹介します。



留学生生活で感じたこと

グリミル ジュラティ
古麗米熱 居来提さん (中国)
(国際文化学部臨床心理学科1年)



民族衣装を着た古麗米熱さん：写真一番右

こんにちは。私は中国の新疆ウイグル自治区から参りました古麗米熱 居来提(グリミル ジュラティ)です。

2009年10月4日、日本へ留学するため、両親と別れの挨拶をした時、悲しくて涙が出ました。でも、振り向くと母が見ているので、無理に笑顔を作って「さよなら」を言いました。

日本の土を初めて踏んだ時、私は深呼吸して、思いっきり日本のきれいな空気を吸い込みました。来日当初、全てが私にとって目新しいもので、これから新しい環境で生活が始まるのだと実感しました。期待に胸を膨らませていた私ですが、最初は色々大変な思いをしました。日本で自転車に乗った時、私は運転が上手ではないので、道でおばさんにぶつかったり、自転車のかごに入れていた卵を割ったりしました。他にも、日本語学校の留学生の先輩からお金を騙し取られたり、寝ている時にベッドから落ちたり、ご飯を作れなくて、日本の甘いものばかり食べて太り、日本語学校の寮のおじいちゃんから「グリちゃんの顔はハンバーガーみたいですね」と言われたり、わさびを食べて気分が悪くなったり、毎朝起こしてくれるお母さんがいなくて、学校へ行くのに遅刻したりしました。

不便なことも多くありましたが、それでも私は一生懸命日本語を覚えようと思いました。例えば、「こんにちは」「あなたの名前は何ですか」「わたしの名前はグリです」「おいくつですか」「19歳です」など、いつも自転車に乗りながら、独り言でぶつぶつ言いながら練習しました。近くにいた人は私のことをおかしい女の子と思ったかもしれません。

来日してから二ヵ月ほどたち、私はスーパーでアルバイトを始めました。スーパーのおばさん達は私にとってもやさしく接してくれました。そして博多弁も教えてもらいました。「何ばしょっと」「良かよ」「グリちゃんは、よお寝んしゃあもんね」などなどで

す。日本人の友達から、「スーパーでアルバイトをしてから日本語が上手になったね」と言われました。博多で生活している私の日本語は、きれいな日本語ではなく、ひょっとしたら博多弁が少し混ざっている日本語かもしれません。

私は2011年4月に九州産業大学に入学しました。大学生活も勉強も楽しいです。また、今は、マクドナルドとセブンイレブンでアルバイトをしています。工作中、よく言葉を間違えることがあります。セブンイレブンでお客様に「店内でお召し上がりですか」と聞いて、お客様をびっくりさせしまったことや、マクドナルドで「ホットコーヒーをお待ちのお客様」と言わなければならない時に、「ほっともつとお待ちのお客様」と言ってしまったこともあります。

今はようやく日本の生活に慣れ始めました。自転車に上手に乗れるようになり、わさびを少しは食べられるようになり、最近では着物やお茶、お花を習っています。そして、前に比べると日本語が上手く相手に通じるようになりました。

日本人は、仕事でも生活でも何をやるにしても、真面目に頑張る民族だと感じています。日本は昨年3月に大震災で大きな被害を受けましたが、人々は希望を失わず、勇気を持って生活や地域を再建しようとしています。私はこのような日本人を尊敬します。

日本に来て、人生を理解し、生活の苦しさを感じ、成長することができ、留学させてくれた両親にとっても感謝しています。それから、今までお世話になった皆さんにとっても感謝しています。心から、ありがとうございました！

これから、日本の素晴らしさを学んで、目的意識をもって自分の新しい道を切り開いていきたいと思えます。留学生の皆さん一緒懸命がんばりましょう！私の話は以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

留学生の四季

Quarterly Journal of International Students

本学では、10カ国から約500人の留学生が、遠く故郷を離れ、それぞれ目標に向かって勉学に励んでいます。また、本学では、留学生会が組織されており、留学生同士、日本人学生、地域住民の方々との親睦を深めるため、様々な交流活動を実施しています。



新入留学生オリエンテーション 2011.4.2(土)



留学生定例総会 2011.4.26(火)



新入留学生懇談会 2011.5.13(金)



新入留学生バスハイク 2011.5.15(日)



在留生活指導会 2011.5.13(金)



香椎祭 2011.11.3(木)~7(月)



日本語弁論大会 2011.12.3(土)



日本語弁論大会後の懇談会 2011.12.3(土)

幼稚園・小学校訪問

Visit of Kindergarden, Elementary school

ツルタみとま幼稚園

平成23年7月7日(木)、本学の交換留学生のケイティ・スミスさん(イギリス)がツルタみとま幼稚園を訪れ、園児と交流しました。

ケイティさんは、遊びの要素を取り入れながら、簡単な英語を園児たちに分かりやすく教え、そして、ケイティさんの母国であるイギリスの童謡を紹介し、園児と一緒に歌いました。園児の大多数が、異国の人と触れ合うのが初めてだったようで、瞳を輝かせながら、とても嬉しそうに交流していました。



園児に英語を教えるケイティさん



園児との交流

篠栗小学校

平成23年2月8日(火)、2月21日(月)に本学の留学生7名(中国、ネパール、イギリス)が篠栗小学校を訪れ、小学3年生の児童と交流しました。

各留学生は、母国の簡単な言葉や文化について小学生に紹介しました。その際に、児童から各留学生に対し、「代表的な料理は何ですか」「お金の単位を教えてください」「日本に来て驚いたことは何ですか」「日本のどんなところが好きですか」など様々な質問が飛び交い、児童の異文化に対する興味は尽きませんでした。そして留学生と児童は、一緒にゲームを楽しむなど、お互いの文化を知る貴重な国際交流となりました。

2月8日(火) (1回目)



写真左 :リガル・ビネシュ・クマル(ネパール)

写真中央 :ウィルソン・リュング(イギリス)

写真左 :劉 晋澤(中国)

2月21日(月) (2回目)



写真左 :カドカ・マノジ(ネパール)

写真中央左 :劉 晋澤(中国)

写真中央右 :ケイティ・スミス(イギリス)

写真右 :チェン・テレンス・サイ・キッド(イギリス)



小学3年生との交流(1回目)



小学3年生との交流(2回目)

ツルタみとま幼稚園での国際交流の感想



経営学部交換留学生
ケイティ・スミス
(イギリス)

私は、篠栗小学校とツルタみとま幼稚園で子どもたちと交流しました。最初は、やはり緊張していましたが、私はもともと子ども好きだということもあり、すぐに子どもたちと打ち解け、楽しく交流することができました。英語や母国の文化を色々を紹介しましたが、子どもたちがこれをきっかけに、英語や異国の文化に関心を持ってくれたら嬉しいです。子どもたちの無邪気な笑い、ピュアな姿を見て、自分の小さい頃を思い出しました。イギリスから遠く離れた日本で、日本の子どもたちと交流できたことは、すごく貴重な経験になったと思います。

平成23年度国際交流の歩み

The Chronicle of KSU International Exchange in 2011

平成23年度も韓国・中国の大学から、学生・教職員の受入れ、派遣を行いました。この学生交流・教員交流・学術交流を通して、交流協定締結校との友好の絆は、ますます深まりました。なお、本年度の主な国際交流の実績は、以下のとおりです。

派遣

蔚山大学校デザイン大学・東西大学校デザイン学部(韓国)

日程:平成23年8月25日(木)～8月30日(火)
目的:学生・教員交流のため
派遣:学生23人・教員2人
栗田 融 准教授
佐藤 佳代 講師

上海工程技术大学芸術設計学部(中国)

日程:平成23年8月26日(金)～8月30日(火)
目的:学生・教員交流のため
派遣:学生11人・教員2人
河地 知木 教授
百瀬 俊哉 教授

忠南大学校経商大学(韓国)

日程:平成23年11月4日(金)～11月7日(月)
目的:学生・教員交流のため
派遣:学生20人・教員2人
原 康記 教授
郭 智雄 准教授

中国人民大学(中国)

日程:平成23年12月19日(月)～12月21日(水)
目的:学術・教員交流のため
派遣:教員1人
宮下 さおり 准教授

天津大学(中国)

日程:平成24年3月26日(月)～3月30日(金)
目的:学術・教員交流のため
派遣:教員2人
豊福 俊泰 教授
内田 泰三 准教授



蔚山大学校・東西大学校へ学生派遣(韓国)

受入れ

東西大学校デザイン学部(韓国)

日程:平成23年6月29日(水)～7月2日(土)
目的:学生・教員交流のため
受入れ:学生37人・教員3人
李 明姫 教授
徐 漢錫 教授
金 世和 教授

上海工程技术大学芸術設計学部(中国)

日程:平成23年7月19日(火)～7月26日(火)
目的:学生・教職員交流および芸術学部講義受講のため
受入れ:学生13人・教職員7人
王 如儀 教授 施 小軍 講師
金 鶴 教授 劉 宏江 講師
杜 紅玲 講師 李 云先 職員
陳 凌 講師

蔚山大学校デザイン大学(韓国)

日程:平成23年7月30日(土)～8月7日(日)
目的:学生・教職員交流および集中講義受講のため
受入れ:学生40人・教職員5人
全 聖福 教授 李 銀貞 職員
金 建佑 教授 朴 知恵 職員
尹 鍾庚 職員

天津大学(中国)

日程:平成23年11月24日(木)～11月29日(火)
目的:学術・教員交流のため
受入れ:教員2人
王 建輝 教授
余 莉萍 准教授

忠南大学校経商大学(韓国)

日程:平成23年12月17日(土)～12月21日(水)
目的:学生・教員交流のため
受入れ:学生35人・教員3人
ROH JOONHWA 教授
LEE DOHHEE 副教授
KIM YOOJUNG 助教授



上海工程技术大学芸術設計学部学生受入れ(中国)

今月の表紙

JUNCTION(ジャンクション)は、2001年に国際交流センター報として発行された際に人と人との交流を大切にしながら、多文化が合流するという意味で命名されました。

今号の表紙は、アビリン・クリスチャン大学(アメリカ)に派遣された南有紗さん(写真中央)がアメリカンフットボール場で撮影した写真です。

編集・デザイン/芸術学部デザイン科 小川 晴菜
発行/九州産業大学国際交流センター
〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1
TEL(092) 673-5588 FAX(092) 673-5611
掲載している職名及び学生の学年は平成23年度のものであります。